魅力発信！えひめ農業

令和7年3月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
３月のトピックス５選 3
東予広域花木生産技術等連携会議の開催 3
県オリジナル品種「愛媛果試第 48 号」のせん定講習会を開催 3
青年農業者がプロジェクト活動等を報告 4
災害に強く省力化に寄与する園内作業道を推進 4
「媛小春」のお酒の販売開始を PR. 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
「西条地区青年農業者のつどい」開催を支援 6
令和７年産裸麦栽培の管理の徹底 6
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 7
土壌分析結果に基づく施肥改善に取り組む 7
「うま茶」の販路拡大・PR へ SNS を強化. 7
■東予地方局　産地戦略推進室 8
春以降のいちごの栽培管理の指導と出荷基準の目合わせを実施 8
■今治支局　地域農業育成室 8
知事が上浦再編復旧園地を視察し農業研修生と意見交換 8
今治きゅうり、センチュウ対策に新たな取り組み 9
観光いちご園就職希望者といちごの食味調査 9
■今治支局　地域農業育成室　しまなみ農業指導班 10
かんきつせん定講習会を開催 10
■今治支局　産地戦略推進室 10
しまなみみんなのディッシュ新会員と商品の売り込みを協議 10
■中予地方局　地域農業育成室 11
樹園地基盤整備園での土づくりの認識を深める 11
家族経営協定締結農家が先進地で研修 11
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 12
香川県で集落営農組織活動と小麦等の栽培を研修 12
「媛かぐや」の産地化に向け、次年度の活動を協議 12
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 13
若手女性農業者が地域食材の活用を学ぶ 13
雑穀の伝承で地域活性！今後の方策を協議 13
■中予地方局　産地戦略推進室 14

紅プリンセス及び甘平の実証結果を報告 14
パクチーの周年安定出荷を目指して 14
■南予地方局　地域農業育成室 15
一次産業女子さくらひめメンバーがグループを結成 15
■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 15
農業の担い手確保・育成に係る研修枠組みを検討（第２回） 15
JA えひめ南鬼北ゆず部会が日本農業賞（集団組織の部）優秀賞を受賞..... 16
■南予地方局　地域農業育成室　愛南農業指導班 16
一本松小学生へ愛媛農業の魅力を発信 16
Misho（河内晩柑）がスイスに向け出発 17
鳥害対策の実証報告会を開催 17
■八幡浜支局　地域農業育成室 17
紅プリンセスの AI 自動選果を目指し実証試験を実施 18
■八幡浜支局　地域農業育成室　大洲農業指導班 18
大洲・内子いきいきネットワークの活動支援 18
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 19
鳥獣被害防止セミナーを開催 19
西予青年農業者連絡協議会研修会を開催 19
■農産園芸課　高度普及推進グループ 20
麦の採種ほ審査（Ｉ期）の実施 20

３月のトピックス５選

標　題	東予広域花木生産技術等連携会議の開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月 18 日	場所	東予地方局第二庁舎	
指導対象	―	連携機関	JA（おちいまばり、周桑、東予園芸、えひめ未来、）丹原高等学校、農産園芸課、花き研究指導室	
普及指導内容	○東予の花木産地が相互に協力し合いながら発展していく方策を検討することを目的に、JA、丹原高校、県の花木生産振興関係者が一堂に会した「東予広域花木生産技術等連携会議」を開催した。 ○農林水産研究所花き研究指導室から有望新規品目の紹介や当室の実証試験報告、新規栽培者へ向けたパンフレットの紹介と配布、丹原高校から挿し木の取組みについて報告を行ったほか、各 JA における苗供給体制の課題等について意見交換を行った。 ○当室は令和６年度に実施したメラレウカの葉先枯れ対策の実証報告を行い、かん水の有効性を周知すると共に、栽培者へのかん水の推進を依頼した。			
結果と今後	○令和７年度は、当室で管内各 JA の不足苗の取りまとめを行い、丹原高校に育苗を依頼し配布する。 ○また、丹原高校生が講師となり、栽培者自身が面積拡大を行うための挿し木技術を習得する講習会を開催する事を決定した。			

当室による実証結果報告

丹原高校生による取組の発表

標　題	県オリジナル品種「愛媛果試第 48 号」のせん定講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 17・21・27 日	場所	今治市菊間、大西、富田	
指導対象	かんきつ生産者（43 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○県オリジナル品種「紅プリンセス」のせん定講習会を開催した。 ○本品種は直立性が強く、枝が硬化しやすいため下垂しにくく、下方向への誘引が難しい。 ○枝先端部で発芽・着花しやすいこと、葉がやや小さめで果実が露出しやすく夏季に日焼けを起こしやすい特徴がある。 ○そこで、春季はできるだけ枝数を減らさず、新梢先端に発芽、着花を多数確保することで、自然と下垂するよう誘導させるポイントを指導した。			
結果と今後	○菊間では樹齢３年、４年、５年の樹があり、５年の樹はせん定できるものの、４年樹ではまだ樹が小さく成長途上であるため、現時点ではせん定を控えるよう指導したところ、受講した生産者は少々戸惑い気味であった。 ○今回せん定しなかったことで、今後どの程度樹冠が拡大するのかを確認するため、３か月後に摘果講習として再度集まり、検討することとなった。			

愛媛果試第 48 号のせん定指導

標　題	青年農業者がプロジェクト活動等を報告		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月６日	場所	中予地方局	
指導対象	松山地区青年農業者連絡協議会会員(18 人)、農業指導士(３人)	連携機関	松山市、東温市、JA えひめ中央	
普及指導内容	○青年農業者が日頃抱えている問題点の解決策や成果等を報告する「プロジェクト活動等報告会」を開催。 ○プロジェクト活動では「甘平の裂果対策」についてＨＡＰＰ（北条支部）が報告するとともに、３月 11 日に中四国ブロック代表として全国青年農業者会議で意見発表した和泉氏が発表し、会員同士で活発な質疑応答を行うとともに、農業指導士が青年農業者に対し活動のアドバイスを行った。 ○また、３月から本格販売が開始された紅プリンセスの試食を実施し、栽培上の課題等について情報交換を行った。			
結果と今後	○プロジェクト活動や意見発表について、互いの意見を交換することで、資質向上を図るとともに、自身の農業経営の参考とした。 ○プロジェクト活動については、４月に開催される「第 61 回愛媛県若い農業経営者大会」において地区代表として発表する。			

左：プロジェクト活動等の報告
右：紅プリンセスを試食

標　題	災害に強く省力化に寄与する園内作業道を推進		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 10 日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	かんきつ生産者（10 人）	連携機関	南予地方局農村整備課 宇和島市、JA えひめ南	
普及指導内容	○西日本豪雨災害からの復興を目指した早期成園化や、災害に強く省力化に対応した園地づくりに向けた研修会を開催した。 ○当室は、豊作が予想されるかんきつの生産対策、縮間伐や簡易園内道の設置による省力化の実践、さらに「紅プリンセス」の生産拡大について説明し、簡易園内道設置事例の現地研修を行った。 ○改良復旧園地では、２年半の育成で収穫を実現した園主から、早期成園化のポイントを学んだ。			
結果と今後	○生産者からは、「簡易園内道は急傾斜でも設置可能で安価なのが魅力的」「自分の園地にも導入したい」などの意見があった。 ○今後は、紅プリンセス栽培技術の普及や園内道設置を推進していく。			

左：急傾斜園に作成した簡易園内道
右：改良復旧園で早期成園化のポイントを研修

標　題	「媛小春」のお酒の販売開始を PR		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月６日	場所	愛媛県庁	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会員	連携機関		
普及指導内容	○「媛小春」を活用した加工品やその取組みを広く PR するため、当室が支援している南予の媛小春魅力アップ協議会の宮本会長のほか、製造・販売の関係者３人が、新発売となったお酒を知事へ報告した。			
結果と今後	○今回発売された２種類のお酒を試飲した中村知事から「濃厚な甘味を楽しみながら程よく酔える」「有望な品種で特に糖度が抜群に高い」「かんきつ王国愛媛の幻の品種、ぜひ世に出していって欲しい」など「媛小春」の生産・販売拡大に向け、高い期待が感じられるコメントがあり、テレビや新聞等でも取り上げられた。 ○今後も生産拡大により増加が予想される規格外品を有効活用した加工品の開発を進め、農家手取りの向上を目指す。			

知事との懇談の様子

知事と関係者での記念撮影

今回発売された 2 種類のお酒

えひめ農業

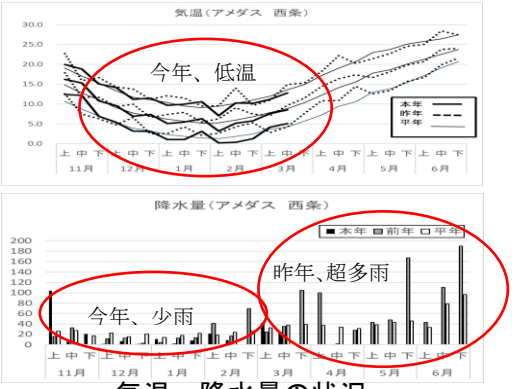
標　題	「西条地区青年農業者のつどい」開催を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月６日	場所	西条市役所	
指導対象	西条地区青年農業者協議会会員（17 人）	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	○会員が一堂に集い、実践班活動や視察研修会等の報告を通じて、相互の研鑽と交流を図ることを目的とした標記つどいの開催を支援した。 ○実践班によるプロジェクト活動報告と、県外視察研修や鳥獣害対策活動等に関する発表が行われ、発表後には、実践班ごとに分かれて情報交換や次年度のプロジェクト活動の打ち合わせを行った。			
結果と今後	○参加者からは「他の実践班の活動内容に刺激を受けた」「新規会員とともに、活動をさらに活発にしていきたい」などの声が聞かれた。 ○４月に開催される「若い農業経営者大会」の東予地区代表として、野菜実践班の活動が選ばれた。 ○当室では、地区代表発表内容を指導するとともに、今後もプロジェクト活動を始めとした青年農業者の活動を支援していく。			

プロジェクト発表

意見交換

【実践班】
当協議会では経営作物に応じて、作物・野菜・果樹・花き・畜産の５つの組織を結成し、プロジェクト活動や先進地視察を行っている。

標　題	令和７年産裸麦栽培の管理の徹底		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 25 日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	JA 周桑米麦部会員（27 人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○令和７年産の裸麦は、多くのほ場が 12 月播種となり、穂数が少なくなることが懸念されていることに加え、昨年産は出穂期以降に降雨が多く、収量、品質が低下したため、今後の仕上げ管理が重要となる。 ○このようなことから、JA 周桑裸麦後期管理研修会において、開花期の適期防除、赤かび病及び雑草対策、収穫調製等の適切な実施について指導した。			
結果と今後	○参加者は、今年産も今後の降雨や湿潤状況が心配されることや、赤かび防除を徹底すること等、品質向上に向けた管理を再認識した。 ○当室では引き続き、気象情報や赤かび病の胞子飛散状況をもとに防除指導を行うとともに、雑草対策、収穫調製の指導の徹底により、収量・品質向上を目指す。			



気温、降水量の状況

生育状況の説明

標　題	土壌分析結果に基づく施肥改善に取り組む		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年３月７日	場所	四国中央市中之庄町	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会会員（８人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	○青年農業者は新規参入者定着活動支援事業のプロジェクト活動として、施肥改善及び生産性向上に向けた土壌分析を実施した。 ○当班は勉強会を開催し、分析結果をもとにした各ほ場の施肥の改善点等を提案、指導した。 ○会員は、現状の課題を洗い出すとともに、次作以降に投入する肥料の種類や量等を検討した。			
結果と今後	○栽培品目は会員ごとに異なるが、共通して石灰やリン酸過剰等が問題となっていた。 ○過剰となっている肥料要素の投入を控えるとともに、石灰過剰を抑えるための資材投入計画を作成し、施肥改善を図ることとした。 ○当協議会は来年度以降も土壌分析を行い、年次別の土壌の変化等を見える化し、施肥改善に向けた取組みを継続することとしている。			

左：土壌分析実施

右：土壌分析結果勉強会

標　題	「うま茶」の販路拡大・PR へ SNS を強化		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年３月 18 日	場所	四国中央市農業振興センター	
指導対象	うま茶振興協議会	連携機関	四国中央市、JA うま	
普及指導内容	○当協議会は、令和４年度から SNS（インスタグラム、ブログ）を活用し「うま茶」の魅力発信を行い、販路拡大や産地 PR に努めている。 ○今回、インスタグラマー「ゆりママん」さんの協力のもと同市の茶産地への集客力やファン層拡大に向け、令和７年度に取り組む SNS 等を活用した販路拡大や PR 方法について協議した。			
結果と今後	○購買力の高い 40～60 歳代をターゲットに、視聴覚で楽しめる YouTube を新たに活用し、「うま茶」のイメージや印象をより強く発信するとともに、生産者や茶産地の時期別の特長や栽培状況等を盛り込む内容とした。 ○また、香り高い「うま茶」の鮮やかな色味や豊かな風味に富んだ特色を消費者に届けるため、新たな茶の商品開発や体験型イベント等を積極的に展開することとした。			

生産者の声を茶産地から届ける SNS

（「ゆりママんブログ」より）

標　題	春以降のいちごの栽培管理の指導と出荷基準の目合わせを実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月７日	場所	西条市丹原、壬生川	
指導対象	いちご生産者（17 人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○春以降は、ハウス内の温度が急激に上昇しやすく、温度が上がり過ぎると生育が停滞するだけでなく５月以降の着果が抑制されることから、こまめな換気を行うよう指導した。 ○加えて、３月以降は果実の成熟が進みやすく、出荷時に過熟果が混入すると市場評価が著しく下がることから、適切な着色度合いでの収穫を呼び掛けた。			
結果と今後	○生産者からは、「３月からは栽培管理や出荷基準がガラっと変わるため、気持ちを切り替えていきたい」「収穫盛期に差し掛かるが、栽培管理がおろそかにならないよう注意していきたい」との声が聞かれた。 ○当室は引き続き、現地巡回などを通じて栽培管理の指導を行うとともに、栽培環境モニタリング機器を導入している生産者については、データに基づいたより精度の高い温度管理を指導する。			

春以降の栽培管理を指導

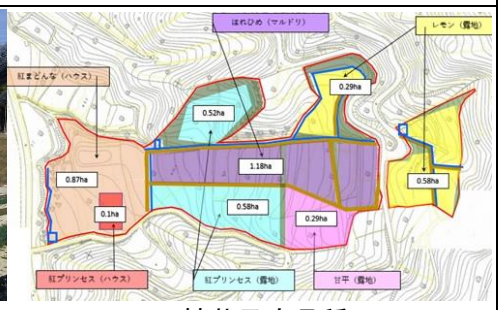
出荷基準の目合わせを実施

出荷時の着色度合い

標　題	知事が上浦再編復旧園地を視察し農業研修生と意見交換		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 10 日	場所	今治市上浦町	
指導対象	農業研修生（4 人）	連携機関	JA おちいまばり 今治支局農村整備課	
普及指導内容	○おおむね工事が完了した再編復旧園（盛工区 4.5ha）を知事が訪問し、園地やスマートアグリ取組状況を確認、農業研修生と意見を交わし若者の活躍に期待を込めた。 ○昨年植栽した園地（海側 1ha）は、気象観測装置を活用した自動かん水装置や農業用ドローン、リモコン操作できる草刈機の導入などデジタル技術を活用し、効率よく高品質なかんきつを生産する実証拠点として活用している。			
結果と今後	○4 月に就農する研修生３人（うち２人は県外から移住）は、農業 DX を活用して地域をけん引する担い手として、技術活用を進めていく。 ○今後は、復旧園地（中段・山側）で施設整備や緑肥作物の栽培による土づくりに取り組み、紅コレクション（「紅まどんな」「紅かんぺい」「紅プリンセス」）や「はれひめ」等を定植し、営農再開に向けて新たなステージに入る。			

知事と農業研修生が交流

復旧状況を確認



植栽予定品種

標　題	**今治きゅうり、センチュウ対策に新たな取り組み**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年３月３日	場所	今治市朝倉上　きゅうりほ場	
指導対象	きゅうり若手生産者等（５人）	連携機関	岩谷産業（株）、タキイ種苗、病害虫防除所	
普及指導内容	○今治きゅうりは、20t/10a 採りとコスト低減の実現に向けて雨よけハウスで吊下仕立てによる長期栽培に取り組んでいるが、近年ネコブセンチュウが発生しているため、対策として土壌消毒を実施している。 ○当室は、消毒剤の大気中への揮散防止と高い消毒効果を得るため、関係資材メーカーと連携して、気体をほとんど通さない被覆資材「ハイバリアーフィルム」による実証ほを設置した。			
結果と今後	○生産者は、農ポリに比べ高価であるが何度でも使用可能で軽量であるため設置しやすかったと好評であった。 ○当室は、ハイバリアーの効果を検証するため、病害虫防除所と連携してセンチュウの密度を検定するとともに、定植後のセンチュウによる被害状況、生育及び収量の影響等を確認し、継続して指導する。			

ハイバリアーで被覆

メーカーと生産者が意見交換

吊下仕立てのきゅうり

標　題	**観光いちご園就職希望者といちごの食味調査**		機関名	今治支局局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 14 日	場所	観光農園「しまなみいちご園」（今治市中寺）	
指導対象	農事組合法人サポート中寺、高校生（５人）	連携機関		
普及指導内容	○集落営農組織「農事組合法人サポート中寺」が開設した観光いちご園は、「紅い雫」など５品種のいちご狩りが楽しめることから県内外の観光客が順調に増えているが、時期により来場者のいちご品種の好みに偏りが見られている。 ○この要因を探るため、令和７年に当法人就職希望の高校生といちご５品種の食べ比べと糖度調査を実施するとともに、来場者への聞き取り調査を行い、その結果を育苗計画の参考とし、就職希望者のいちごへの関心を高めた。			
結果と今後	○来場者への聞き取り調査では、どの品種も美味しいと好評であったが、この時期は糖度が高く硬めの「あまおとめ」を多数の人が好み、糖度が低く酸味がある「さちのか」は比較的不人気となった。 ○高校生は、品種により特徴がありおもしろい反面、いちご栽培は奥が深いと関心を高めていた。			

品種別の糖度の推移

調査日	1/10	3/14
紅ほっぺ	10.6	10.6
あまおとめ	14.6	12.3
紅い雫	12.0	9.6
おいCベリー	10.8	10.7
さちのか	9.3	8.8

左：品種別に食味と糖度調査

右：糖度調査の結果

標　題	かんきつせん定講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年３月４日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	しまなみ地域かんきつ生産者 （23 人）	連携機関	今治市・上島町・JA おちいまばり	
普及指導内容	○しまなみ農業指導班岩城駐在は、JA おちいまばりと連携し、かんきつせん定講習会を開催。 ○まず、屋内でせん定、電動農具等の説明を行った後、ほ場で電動バサミによるせん定、半樹別交互結実による省力せん定方法を実演した。 ○屋内では駐在所で栽培している香酸かんきつをパネルで紹介した他、紅プリンセスの栽培特性について説明して試食を実施し、栽培啓発を行った。			
結果と今後	○参加者からは、紅プリンセスのせん定方法や、電動農具に係る経費、省力効果などについて熱心に質問があり、新品種や省力化に対する関心の高さがうかがえた。 ○今後も、高品質安定生産や持続可能な農業技術の普及、省力化技術の導入を一層促進することで、しまなみ地域のかんきつ生産力の強化と産地の活性化に努める。			

かんきつのせん定について

電動バサミせん定実演

半樹別交互結実実演

標　題	しまなみみんなのディッシュ新会員と商品の売り込みを協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月 12 日	場所	かえでファーム販売店舗 （今治市菊間）	
指導対象	就労継続支援 B 型事業所かえでファーム	連携機関		
普及指導内容	○当室は、しまなみみんなのディッシュ新メンバーのかえでファームからの要望を受け、同所が製造している商品のブラッシュアップや売り込み先の協議を行った。			
結果と今後	○商品の種類・コンセプトや製造量および配送可能エリアなどから、商品は従来のジャム単体に加えて、新たに開発中のギフトセットとすること、売り込み先は集客力が強く安定販売が見込める、タオル美術館から始めることとした。 ○今後、タオル美術館との協議や売り場でのディスプレイ方法などについて検討し、しまなみみんなのディッシュ商品力の更なる強化を目指す。			

左：商品見本（ギフト）
右：ジャム小瓶

標　題	樹園地基盤整備園での土づくりの認識を深める		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月７日	場所	中予地方局	
指導対象	－	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、松山市、砥部町、農産園芸課、農村整備第一・二課、農林水産研究所	
普及指導内容	○中予地区の樹園地基盤整備の進捗状況について、関係機関で情報共有するため、中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会を開催。 ○一部の園地ではかんきつの植栽が始まるなど営農が開始されているが、地力が低いため土壌の改善が必要なことから、緑肥作物を用いた土壌浸食防止や腐植含有量の増加による土づくり対策の重要性について情報を共有した。			
結果と今後	○今後は、「次世代かんきつ整備園強化事業」（令和７年度局予算事業）を活用して土壌改善による地力向上やスマート農機の導入・普及を促進し、高品質かんきつの生産拡大につなげる。 ○また、気温や雨量などの７項目の環境をモニタリングできる機器を設置し、高品質安定生産に向けたデータを蓄積する。			

左：土づくりの取組みを報告

右：基盤整備後の堆肥の投入

標　題	家族経営協定締結農家が先進地で研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月７日	場所	伊方町かんきつ園 八幡浜支局	
指導対象	家族経営協定締結農業者ネットワーク推進協議会員（16 人）	連携機関	八幡浜支局地域・産地両室	
普及指導内容	○松山市及び東温市の家族経営協定締結農家が、かんきつのスマート農業及び鳥獣被害対策の研修に参加。 ○伊方町のかんきつ農家では、果実の糖度やクエン酸を分析できる AI 選果機を活用した高収益販売や選別作業の省力化について学んだ。 ○また高周波音による鳥害対策やカメムシ類の被害軽減対策について説明を受けた。			
結果と今後	○スマート農機の導入による省力化や鳥獣害対策等は、農家の共通課題であることから、機器の導入による効果や普及性について多くの質問が出された。 ○管内では今年度、新たに４戸の農家が家族経営協定を締結し、締結農家数は 281 戸となった。			

AI 選果機による選別

高周波音装置の説明

果樹カメムシ対策を学ぶ

標　題	香川県で集落営農組織活動と小麦等の栽培を研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年３月 12 日	場所	香川県観音寺市、三豊市	
指導対象	－	連携機関	伊予市、松前町、砥部町、JA（松山市、えひめ中央）等	
普及指導内容	○関係機関・団体で構成する伊予地区農業改良普及事業推進協議会と農業技術者連絡協議会は、集落営農組織の活動と小麦等の高収益栽培の先進地を研修。 ○観音寺市の農事組合法人立石からは、集落営農組織の立ち上げから「地域の農地は地域の者で守る」を基本に借金を抱えない経営や担い手の確保・育成対策等について説明を受けた。 ○三豊市の農家からは、小麦が 600kg/10a を超える多収栽培技術とブロッコリー栽培における中耕や除草、きめ細かな肥培管理による高品質栽培について学んだ。			
結果と今後	○集落営農の経営安定については、米麦栽培に加え野菜などの高収益品目の導入と従事分量配当のポイントや後継者確保の考え方など熱心な意見交換を行い、集落営農の運営について見識を高めることができた。 ○小麦、ブロッコリー栽培では、高品質多収栽培のノウハウを学び、現場での農家指導に活かすこととした。			

左：「農事組合法人立石」と意見交換

右：小麦の高品質多収栽培技術を学ぶ

標　題	「媛かぐや」の産地化に向け、次年度の活動を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年３月 11 日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	「媛かぐや」産地育成推進会議会員（10 人）	連携機関	伊予市、松前町、砥部町、JA（松山市、JA えひめ中央）	
普及指導内容	○「媛かぐや」の産地化に向けた今年度の活動実績や来年度の計画等について協議するため第２回媛かぐや産地育成推進会議を開催。 ○流通面では、JA 松山市による販売に加え、当指導班のマッチングにより県内外の青果会社（１社）と飲食店（１社）との取引が成立した。 ○また、TOBEMORI　SEEDS による消費者向け収穫イベントや、JR 大阪駅における販促活動を報告した。			
結果と今後	○今年度の生産者数は 15 人、栽培面積は 17a（前年度７人、６ａ）と増加したほか、３戸の生産者が新たにセル苗自家育苗技術を導入した。 ○来年度は、安定生産技術（早期定植等）を確立し、生産量の確保と流通体制の強化を図る。 ○また、伊予農業高校及び河原学園とのコラボ商品の開発も予定しており、引き続き関係機関と連携し「媛かぐや」の産地育成に努める。			

【TOBEMORI SEEDS】
愛媛県総合運動公園の指定管理者「一般社団法人 e.n（エン）」、ニンジニアネットワーク(株)、協和道路(株)、河原学園、(株)愛媛新聞社からなる企業組織。

左：収穫イベントで消費者へ PR

右：マルシェでの販促活動

標　題	**若手女性農業者が地域食材の活用を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年３月６日	場所	久万保健センター	
指導対象	女性農業者等（７人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	○家族で移住した農家の配偶者や若手女性農業者のネットワークの構築を目的とした、女性農業者交流会を開催。 ○料理専門家の矢野邦子氏を講師に、地域食材「たかきび」と「地とうきび」を製粉した「はな粉」を使った料理４品（キャッシュ、ポタージュ、ドレッシング、炊き込みご飯）を調理した。 ○地域食材を味わいながら、雑穀の活用アイデアや農業における日常の悩みなど幅広く意見を交わし交流を深めた。			
結果と今後	○参加者からは「料理をしながら気軽に話せて良かった」「今回のような機会がないと交流が無いので定期的に集まりたい」等の意見が出された。 ○若手女性の交流や情報交換の場を展開するため組織化についても前向きに検討することとなり、引き続きネットワークの構築に向け支援する。			

左：地域食材を活用した調理講習

右：若手女性農業者の交流

標　題	**雑穀の伝承で地域活性！今後の方策を協議**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年３月 19 日	場所	JA 松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議会員（10 人）	連携機関	久万高原町、JA 松山市	
普及指導内容	○雑穀のブランド化を推進するため「久万高原地域食材伝承事業」（局予算事業）に係る今年度の活動実績や来年度の計画について協議。 ○小学校での食育教室や、町内飲食店を対象とした雑穀レシピ調理講習会の結果及びその後の反応について報告し、今後の活動について方向性を共有した。 ○また。町内飲食店のタネマキ食堂が、雑穀を使った２品（はなこねり汁、ベーグル）を紹介し、試食をしながら雑穀のさらなる活用について意見交換を行った。			
結果と今後	○参加者からは「飲食店では通年供給を望む声が挙がっており、原材料の確保が急務である」「生産者の労力や経費に応じた適切な価格設定が必要である」等の意見が出された。 ○次年度は「雑穀生産ステップアップ支援事業」（局予算事業）を新たに展開し、雑穀の生産振興と新規需要の創出に取り組む。			

左：試作品を試食

右：はな粉を使った「はなこねり汁」

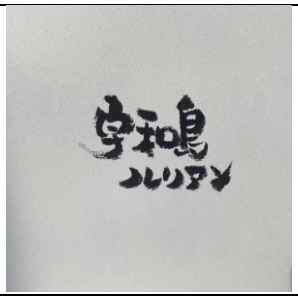
標　題	紅プリンセス及び甘平の実証結果を報告		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月 17 日	場所	果樹研究センター	
指導対象	魅力ある中晩柑産地づくり会議委員（21 人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）松山市、伊予市、農産園芸課、果樹研究センター	
普及指導内容	○紅プリンセス及び甘平の連年安定生産技術の確立を図るため、第２回魅力ある中晩柑産地づくり会議を開催し、実証試験（紅プリンセス：す上がりと日焼け対策、甘平：裂果対策等）の結果報告と情報交換を行った。 ○甘平は、園地条件対応型技術確立試験での３年間の成果を「目指せ！甘平の連年安定生産マニュアル（中予版）」に取りまとめ、関係機関への配布と説明を行った。			
結果と今後	○紅プリンセスは主枝誘引によるす上がり軽減と、伸縮性果実袋と樹冠表層摘果による日焼け軽減効果を実証でき、次年度も「紅プリンセス生産支援事業」（県予算事業）を活用し、高品質果実生産によるブランド力向上を目指す。 ○甘平は多量かん水区での裂果軽減や大枝別・半樹別結実法による隔年結果軽減を実証できたことから、マニュアルを活用した安定生産技術を普及する。			

左：実証ほの結果報告
右：甘平の連年安定生産マニュアル

標　題	パクチーの周年安定出荷を目指して		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年３月７日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	パクチー生産者等（18 人）	連携機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央、食品産業技術センター	
普及指導内容	○「パクチー周年安定生産体制確立事業」（局予算事業）に係る第２回対策会議を開催。 ○当室からは、実証ほの結果報告とこれまでの成果をまとめた栽培マニュアルを説明したほか、大阪市場での PR 活動や千葉県への先進地研修を報告した。 ○食品産業技術センターからは乾燥粉末加工と冷蔵冷凍保存について、JA からは大阪市場での販売状況と出荷時の注意点等についての説明があった。			
結果と今後	○参加者からは「栽培マニュアルにより、レベルアップを図りたい」「規模を拡大して、計画出荷できるように取り組みたい」等の意見が出された。 ○本事業は今年度で終了するが、引き続き生産者や関係機関と連携し、中予産パクチーの安定出荷、認知度とブランド力向上を推進する。			

左：実証ほの結果を報告
右：パクチーの栽培マニュアル

標　題	**一次産業女子さくらひめメンバーがグループを結成**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 19 日	場所	宇和島市津島町	
指導対象	一次産業女子さくらひめメンバー（５人）	連携機関		
普及指導内容	○宇和島市内の一次産業女子さくらひめメンバーが集まり、この度、「宇和島ルリアン」という名称でグループを結成し、設立総会を開催した。 ○グループの基本理念や規約、役員（代表　渡邉眞由美氏（宇和島市津島町　かんきつ経営））を決定するとともに、今後のグループ活動について検討した。			
結果と今後	○設立にあたり、メンバーからは「同じ立場の女性同士の情報交換の場が増えてうれしい」「若い人達に向けて何か発信したい」等前向きな意見が聞かれた。 ○今後、「令和７年度女性が変える未来の農業推進事業（地域における女性活躍推進事業）」に採択されるよう支援するなど、関係機関とも連携しながら、当グループの活動を支援していく。			



左：グループメンバー（１名欠席）
右：グループ名

標　題	**農業の担い手確保・育成に係る研修枠組みを検討（第２回）**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年３月 19 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	－	連携機関	松野町、鬼北町、各町農林業公社、JA えひめ南	
普及指導内容	○第１回検討会（R6.12 月）で今後の検討課題となった、JA・指導班が提供可能な研修メニュー（オプション）の具体的な開催時期や講座内容等について協議した。 ○「病害と生理障害の見分け方」「鳥獣害対策」「ゆず栽培」等、JA や当班の職員等を講師とする座学約 15 講座、実習約 10 講座を提案。 ○研修生の希望に応じて受講できることとし、公社での研修の補完となるような内容とすることを決めた。			
結果と今後	○「研修は午後開催が良い」「開催日が近付いたら各公社等へ連絡してほしい」「メニューの一覧表が整理でき次第配布してほしい」等の意見があった。 ○当日の意見を踏まえて開催時期や内容を整理し、次回検討会（５～６月予定）で再度内容を確認した上で、８月頃から試行運用を開始する予定。			

関係機関との協議

標　題	**JA えひめ南鬼北ゆず部会が日本農業賞（集団組織の部）優秀賞を受賞**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年３月 26 日	場所	JA えひめ南鬼北支所	
指導対象	JA えひめ南鬼北ゆず部会	連携機関	JA えひめ南、鬼北町、松野町	
普及指導内容	○JA えひめ南鬼北ゆず部会総会において、第 54 回日本農業賞（集団組織の部）優秀賞の授与式が行われた。 ○同部会長からは「有機栽培や地元加工業者との連携、海外輸出の取組み等、これまでの実績が評価されたものであり、後世に活動を引継いでいく必要がある」との挨拶があった。 ○また同部会を対象に先日開催されたせん定講習会では、２月の大雪により一部地域で発生した枝折れについて、被害程度別の対策技術を指導した。			
結果と今後	○今後は、有機栽培で使用可能な有効資材の実証展示や講習会を通じて、ゆず栽培の普及を支援するとともに、雪害で落葉が目立つ園地もみられることから、施肥管理の徹底を呼びかける。			

左：日本農業賞優秀賞の授与式
右：大雪によるゆずの枝裂け

標　題	**一本松小学生へ愛媛農業の魅力を発信**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年３月４日	場所	愛南町一本松	
指導対象	愛南町立一本松小学校３年生 （21 人）	連携機関	愛南町立一本松小学校、愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	○かんきつ栽培への理解促進、農業に対する興味・関心の向上を目指し、かんきつ学習遠隔授業を開催した。 ○小学生らは、生産者とのリモート遠隔授業や、当班による温州みかん栽培の歴史や愛媛県で栽培されているかんきつ品種等についての４択クイズによる授業を受けた後、「河内晩柑」の生搾り体験や試飲、県オリジナル品種の試食、約 15 種類の柑橘の観察などを行った。			
結果と今後	○小学生からは、「レモンもみかんに含まれるのか」「色々なみかんの種類を知れて嬉しかった」等の質問・感想があり、愛媛県のかんきつや農業について理解を深めてもらうことができた。 ○今後も関係機関と協力しながら、農業の魅力発信に取り組み、若い世代の担い手確保・育成につなげていく。			

左：リモート授業
右：「河内晩柑」の生搾り体験

標　題	Misho（河内晩柑）がスイスに向け出発		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年３月 28 日	場所	愛南町御荘平山	
指導対象	JA えひめ南マルエムフルーツアイランド共選（10 人）	連携機関	愛南町、JA えひめ南 えひめ愛フード推進機構	
普及指導内容	○愛南町の主力品目である「河内晩柑」の販路拡大に向け、misho（河内晩柑）1,600 箱（８ｔ）がスイスに向け輸出された。 ○令和５年度に海上輸送試験を重ね、令和６年度には「misho 輸出推進協議会」が設立され、当班も生産者及び関係機関とともに輸出に向けた園地登録、害虫調査、作業支援を行ってきた。			
結果と今後	○神戸港から海上輸送で輸出されることから、スイスの消費者に届くのは約２か月後の見込み。 ○次年度以降の輸出については、取引先から求められている GLOBALG.A.P.の認証取得を含め、関係機関と協力して「河内晩柑」の輸出定着に向け支援する。			

左：果実の表面殺菌作業

右：梱包された河内晩柑

標　題	鳥害対策の実証報告会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年３月 14 日	場所	八幡浜市川上公民館	
指導対象	八幡浜市川上地区生産者（69 人）	連携機関	八幡浜市、JA にしうわ	
普及指導内容	○うんしゅう類の鳥害対策として実施した高周波音発生装置(ソニック)や鳥類警戒声発生装置による実証結果について、川上地区で報告会を開催した。 ○会では、ソニックを予防的に設置し適期収穫すれば、ヒヨドリに対し一定期間効果があることや、「小太郎※」のような有袋品目ではカラスの被害低減効果があること等の報告があり、当室では、これらの効果を左右する要因が「山林に自生する果実類の多少や周辺園地の収穫進度」や「近隣の雑木林との距離等」であることを指導した。			
結果と今後	○今年度の川上地区の鳥害は、アンケート調査や実証推計でも 4,000 万円程度の被害と見込まれ、農業者の鳥害への関心は高く「忌避剤での対策は？」「鳥類の捕獲檻での試験は？」など多くの質問があった。 ○高周波音による７年度のうんしゅう類の鳥害対策実証は、川上地区から依頼のあった「小太郎」を主として実施することを申し合せている。			

実証結果について報告

鳥害対策について質疑

【小太郎】早生温州の S,2S 果に紙袋を掛けて正月前後に収穫し、袋のまま化粧箱に入れて出荷する JA にしうわ川上共選のブランド品

標　題	**紅プリンセスの AI 自動選果を目指し実証試験を実施**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年２月 28 日、３月６日	場所	JA にしうわ流通センター (株)NP システム開発倉庫	
指導対象	(株)NP システム開発	連携機関	愛媛県農林水産研究所、JA にしうわ	
普及指導内容	○当室は国のスマート農業加速化実証プロジェクト※により開発した AI 選果機に、「紅プリンセス」の選果機能を実装するための実証試験を行った。 ○今回は果形や病害のほか、テスト販売で指摘されている「す上がり」にかかる判定項目の追加を図るべく、選果場等でサンプルとなる果実を収集後、AI に学習させた。 **※スマート農業実証プロジェクト･･･スマート農業の社会実装を加速化するため国が公募形式で行った実証事業**			
結果と今後	○「す上がり」については、AI と目視の判定結果に強い相関が認められ、今後実装に向けた作業が進められる予定。 ○得られた成果は、農家に導入された AI 選果機にも反映され、選果に活用される。 ○サンプル数が限られるため、精度向上のために来年産以後も実証試験を継続する。			

サンプル果実の収集

果実の外観等の特徴を学習

判定結果を検証

標　題	**大洲・内子いきいきネットワークの活動支援**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年３月３日	場所	八幡浜支局	
指導対象	大洲・内子いきいきネットワーク会員	連携機関		
普及指導内容	○大洲市と内子町の女性農業委員で構成される大洲・内子いきいきネットワークが、農村女性の活動についての情報収集を目的に、八西地区の一次産業女子ネットワーク「∞農 Harvest」と交流研修会を開催し、当班が運営を全面的に支援した。 ○会では、「∞農 Harvest」の会員が、地元小学校への食農教育の推進活動や、県一次産業女子ネットワーク「さくらひめ」での活動を紹介し、意見交換を行った。			
結果と今後	○会員からは、「若い女性農業者がこのような活動をしていることを知らなかった。マルシェなど一緒にできることがあれば連携したい」といった声が聞かれた。 ○今後も女性農業者の組織活動を通じた資質向上を図るとともに、管内の若い女性農業者との連携を推進し、地域農業をけん引する担い手へと育成する。			

活動内容を報告

標　題	**鳥獣被害防止セミナーを開催**	機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年３月６日	場所	宇和地域づくり活動センター
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、宇和高校生等（77 人）	連携機関	西予市、JA ひがしうわ
普及指導内容	○管内で、イノシシやハクビシン等の鳥獣被害が深刻化する中、地域ぐるみの被害防止対策を推進するため農業者向けセミナーを開催した。 ○イノシシを中心とした野生鳥獣の生態に基づいた対策や捕獲獣をジビエとして活用する事例等を紹介するとともに、被害防止に向けたパネル展示を行った。		
結果と今後	○参加者は、イノシシやハクビシンの生態について理解を深めるとともに、防護柵による侵入防止の守りと捕獲を基本とする攻めを両立した対策等について、地域で取り組むことの重要性を学ぶ機会となった。 ○当班では、今後も鳥獣被害の軽減に向け、被害防止技術の実証や講習会の機会を設け、地域全体の取組みとなるよう支援していく。		

左：野生鳥獣の害専門家による被害防止対策の講演
右：講演後の質疑応答

標　題	**西予青年農業者連絡協議会研修会を開催**	機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年３月 12 日	場所	宇和地域づくり活動センター
指導対象	西予青年農業者連絡協議会員	連携機関	西予市、JA ひがしうわ
普及指導内容	○青年農業者組織の資質や課題解決能力の向上を図るため、組織で取り組んだプロジェクト活動の成果を報告する研修会を開催した。 ○研修会では、当班が活動支援している児童との米づくりや伝統行事による交流活動、地域の課題であるイノシシ、シカ等の鳥獣被害軽減への取組みを報告し、今後の活動強化に向け意見交換を行った。		
結果と今後	○審査員からは、「地域貢献につながる発表であった」「今後もぜひ若い力で地域を盛り上げてほしい」などの講評があった。 ○今年度から、プロジェクト活動を継続的な取組みとするため、活動期間を長くして隔年で成果発表を行うよう変更しており、当班では、今後も、青年農業者組織の意欲的な活動を支援し、地域農業の活性化を図っていく。		

左：研修会の様子
右：最優秀賞の表彰

標　題	**麦の採種ほ審査（Ｉ期）の実施**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年３月 21 日、26 日、28 日	場所	中予管内採種ほ場（177 ほ場）	
指導対象	伊予地区種子生産協議会 （種子生産者 33 人）	連携 機関	JA（全農、えひめ中央、松山市） 中予局農業振興課、農林水産研究所	
普及指導 内容	○麦の優良種子生産のため、松前町と伊予市に奨励品種「ハルヒメボシ」の採種ほ場を設置している。今月は出穂期にＩ期審査を実施。 ○関係者と連携して、ほ場１単位ごとに異種株、病害虫被害株、雑草等について審査。（のべ 275 ほ場、17 人参加（事前審査含む））			
結果と 今後	○審査結果について JA を通じて種子生産者に周知し、生産指導を行う。 ○引き続き４月３日に１期審査を行うと共に、４月下旬（糊熟期）に２期審査を実施。			

雑草のカラスノエンドウ

近隣圃場から採種した
裸黒穂病の罹病穂（左）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543